

輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

申請者名：帯広大正農業協同組合、品目：ながいも

1. 輸出における現状と課題

【輸出における現状】

- 平成23年産からJA単独としては国内で初めて長いもの輸出を開始。
- 長いものは主にアジア圏で健康食品として薬膳料理等に利用され、根強い人気。日本産の長いものは、他国の産地物よりも白く美しい事が特徴で、好んで買い求められている。
- これまで、業務用として大きい規格のニーズが高かったが、新型コロナウイルス感染症の影響による家庭での食事機会が増えた影響からか、現在は国内流通規格と変わらない規格品のニーズも高まっている。

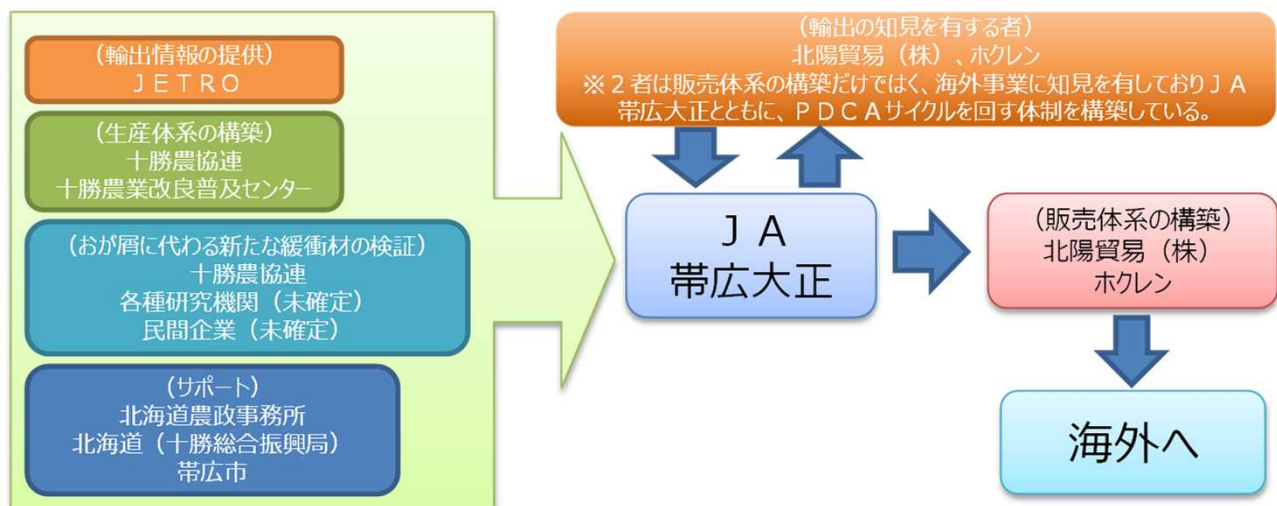
【課題】

- 作付けできる農地に生産余力が無い中、従来の栽培方法による生産では生産量増加が期待できない。
- 輸出先が二カ国しかなく、突発的なトラブルで大幅な輸出量減少のリスクがある。
- 長いも輸送時の緩衝材として利用されている「おが屑」は、天然資源であるため供給制限があることに加え、将来的にも益々価格が高騰するリスクがある為、代替資材を検討する必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

- 株間を狭め、長いも植付け本数を増やすことによって生産量の増加を目指す。大型規格の生産は減少するが、海外で需要が高まっている中型規格は国内流通の従来規格でもあり、海外・国内問わず柔軟で効率的な振り分けが可能。
- 関係企業と協力し、中華系の層からニーズがあるアメリカへの販路拡大を目指す。
- 関係団体や研究機関、民間企業の協力を受け、「おが屑」に代わる新たな緩衝材の検証を進める。
- その他輸出量を増加させる為の取組として、従来の業務用向けだけではなく、一般消費者向けに特化した規格や、ギフト販売向けのパッケージの開発等、需要の底上げを図る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

輸出品目：ながいも	現状 (令和元年)	目標年 (令和6年)
輸出額（円）	40,868,500	45,000,000
輸出量（t）	1,420	1,500
輸出先国	台湾・シンガポール	台湾・シンガポール・アメリカ
全生産量（t）	5,658	5,900